

## 令和5年度

### 第5回桐生市地域公共交通活性化協議会（法定協議会）

#### 開催結果

日時：令和5年12月15日（金）10：30～  
場所：美喜仁桐生文化会館（桐生市市民文化会館）  
4階 スカイホールA

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 議 事

#### 【協議事項】

（1）桐生市地域公共交通計画について

- ①全体構成等 **【資料1】**
- ②目標達成のための施策・事業 **【資料2】**

（2）今後のスケジュールについて

《協議結果：全件 出席者の3分の2以上の賛成により承認》

- 4 その他
- 5 閉 会

#### 【会議資料】

資料1：地域公共交通計画について

資料2：目標達成のための施策・事業

資料3：アンケート集計結果

別紙1：桐生市地域公共交通計画に対する意見報告様式

・桐生市交通ビジョン概要版

●：委員（委員名） ○：事務局 △：コンサル

## 【協議事項】

## (1) 桐生市地域公共交通計画について

## ① 全体構成等 [資料 1]

・ 資料 P. 1～20 説明 (IDA)

●(佐羽)：アンケート結果を見ると、公共交通規模の拡充を求める結果となっている。一方で、目標は収支率の改善など削減していく方向で考えられているが、矛盾はないのか。また、地域間幹線としておりひめバスの中央幹線と相生線をピックアップした理由は何か。

→△：アンケート結果と目標の関係について、路線等を削減していくことも考えるが、路線やダイヤの見直し等により、効率化を図ることで目標を達成することを考えている。

→○：東邦病院をつなぐ中央幹線市役所系統と相生線について、国庫補助を受けるにあたり、他市町村をまたぐ路線を地域間幹線として位置付けている。

●(品川)：目標について、経済効果に関する項目を入れてはどうか。名古屋市では経済効果を狙ったお年寄りの移動支援を実施している。バスや鉄道を利用し買い物に出かけることが増えることで、経済効果がもたらされると考える。公共交通を利用することで、どれくらい経済効果が生まれるのか指標を示すことで、市民にとってわかりやすく、公共交通を維持することの必要性を感じられるのではないか。

→○：市民にとってわかりやすく説得力のある指標として、経済効果は有効だと考えられるが、経済効果の算出方法については研究が必要。計画への反映は検討が必要であるが、今後、群馬大学などと連携しながら研究していく。

→●(委員長)：コンサルとして、何かアイデアはあるか。

→△：一般的に実施されている方法として、「お買い物調査」ある。どこに、どのような交通手段で買い物に行っているか調査し、公共交通の利便性向上により距離抵抗が小さくなり集客数が向上する推計方法は確立している。移動実態のデータがあれば、経済効果の算出が可能になると考える。

●(佐羽)：黒保根地区で実施された会合で、「デマンドタクシーをみどり市に乗り入れ、利便性を向上させたい」という意見があったことを、先日新聞にて目にした。黒保根デマンドタクシーはフィーダー系統として補助金をもらっているが、地域市民に理解されていない。現在の地域の姿は、市民の経済活動の結果であるということを、啓蒙するべき。計画の中に市民に対する啓蒙活動を位置付け、市の全体計画と結び付けることが重要。

→○：交通ビジョンの最重要取組として、基本方針 1 の「市民総ぐるみによる交通変容への挑戦」を位置付けている。交通ビジョンを踏まえた交通計画についても、重要施策として位置付け市民の行動変容につながるよう、引き続き検討を進めていく。

## ② 目標達成のための施策・事業 [資料 2]

・ 資料説明 (事務局)

●(品川)：公共交通の利用が、環境改善につながるということを、子供たちに教育するような取り組

みが必要。群馬県では、交通と環境改善に関するパンフレットを配布していた。計画に環境学習や環境対策についての施策を取り入れてみてはどうか。

→○：交通ビジョンにおいても交通変容への取組を記載しており、施策の柱 1-1「学び考え、共に行動を起こす」において、ゆっくりズムのまちづくりと関連付けて施策を展開していく。交通計画においては、資料 2 の P. 3、4 の内容として盛り込んでいく。

→●（佐羽）：個別施策の 1A について、交通はあくまで手段であるため、日常の生活のあり方を変えていくような取り組みを入れる必要がある。

→○：P. 4「商店街や商業施設と連携した企画の検討」「おりひめバスフリーデーの実施検討」等で盛り込んでいる。頂いたご意見も踏まえ、今後検討を進めていく。

●（小島\*群馬県タクシー協会）：P. 28 の「ユニバーサルデザインタクシーの導入推進」について、現在桐生地区では 5 台ほど運行しており、1 台当たり 350～400 万円と高額。車輛購入に対する補助として、国は 60 万、県は 10 万が上限となっているが、前橋や高崎では県の補助が 30 万ついた事例があり、市の裏負担含めて 120 万円の補助があれば車両が増えるのではないかと。桐生市は導入にあたり補助についてどのように考えているのか。

→○：R3 年度にユニバーサルデザインタクシーを導入した際、市としても国・県と協調して補助金で支援した経緯がある。詳細な事項については今後、事業者と検討していく。

●（小島\*老人クラブ連合会）：P. 18 の「鉄道やバスを利用したくなる仕掛け」について、具体的な内容は決まっているのか。

→○：MAYU については現在検討している最中。おりひめバスについては、これから具体的に、フリーデーなどの取組について検討していく。

●（近藤）：アンケート結果に「積極的に公共交通を使うようにする」とあり、積極的に使う意識があるのであれば、イベントを企画する際は、市民が利用しやすいような内容を考えたいと思った。例えば、公共交通を利用した場合、ポイントを付与する等。

●（小島\*老人クラブ連合会）：老人クラブでイベントを実施する際、家族でないと送迎が不可であったり、遠い場所だと行けなかったりということがあつた。イベント時に MAYU を活用できるようになるという。

→○：社会福祉協議会との連携について、MAYU の検討を進めていく中で協議していく。

●（佐羽）：将来的に地域公共交通は営利事業として成り立たなくなると考えている。10 年の計画期間となっているが、この間にも運転手の不足等が起きてくる。自動運転の普及は日本人の特性を考えると難しいと思う。国や県と連携しながら持続可能な仕組みを研究して頂きたい。また、公共交通を市民で支える仕組み作りを考えて頂きたい。

→○：自動運転については、国としても大きな取組の一つとなっており、二次交通に関して動きがある。市としても国の動きを注視しながら検討するとともに、必要な施策については、全国市長会を通して国に要望していきたい。

→●（委員長）：ヨーロッパでは移動権の考え方がある。市民で公共交通を支えていく意識の醸成ができるとうい。

- (石川)：運送事業者については、2024 年問題として労働時間の規定が厳しくなり、今後さらに運転手の確保が問題となってくる。国としても雇用の促進や国庫補助、公共交通計画を通し協力していく。また、アンケートについて、他の自治体と比べると多少回収率が高いように思う。アンケート結果と交通計画に齟齬がないかよく皆様にも見て頂き、意見を反映させていけると良い。
  - (品川)：桐生市は鉄道が4路線あるが、繋がっていない。しかし、鉄道ファンからすると面白いという意見を多くいただく。鉄道をバスやタクシーでつなぎ、山にも行ける楽しいまちづくりができる。全国から人を呼んで楽しめる施策を展開して頂きたい。
- ：多くの人に選ばれる地域、魅力ある地域とするため、4 鉄道や二次交通の連携、観光部署と協力し、前向きな検討を進めていく。

(2) 今後のスケジュールについて

- ・ 第6回活性化協議会について、1/29(月)15:00～桐生商工会議所ケービックホールを予定。正式な開催通知については、後日送付する。
- ・ 次回、活性化協議会の内容として「1. 桐生市地域公共交通計画(案)」「2. おりひめバス路線(川内線)の見直しについて」「3. 黒保根デマンドタクシーの国庫補助における事業評価について」を予定。

その他

- ・ 「桐生市地域公共交通計画」に関する資料について、ご意見がある場合は別紙1に記入し、1/12までに、事務局あてにメール・FAXにて送付して頂きたい。